



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 283

2020/9/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

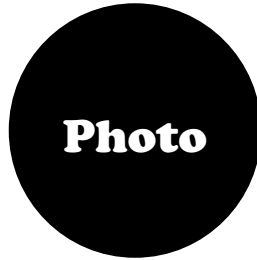
GREEN COLUMN

01. ホタルを見るためには

02. 版画の仲間・モノタイプ



今月の一枚



「防風保安林」

表紙写真・文／鬼丸和幸

稲美地区には、広葉樹が主体となった防風保安林帯が残されています。強風から、水田や畑に植えられた作物を守る役割を果たしてきました。この林の中には、季節を通して、いろいろな動植物が生活しており、規模は小さいものの、貴重な自然環境を形成しています。近くを流れる農業用水路、そして農業用水路に水を供給する美幌温水ため池とセットになって、美幌町の農村環境を特徴づける風景の1つとなっています。

Event. 今月のイベント

特別展「写真家 前川貴行の生き物バンザイ！」～11月25日(日)

ロビー展「海がないのにナゼ!?びほろの海鳥とオホーツクのアホウドリ」

～11月29日(日)

「美幌博物館でお宝をさがせ！」 9月1日(日)～29日(日)

博物館講座(自然編)「バッタのことを知ろう」9月12日(土)

プチ工房「やってみよう!草木染め」 9月18日(金),19日(土)

Information. 参加者募集

「美幌博物館でお宝をさがせ！」

●9/1(火)-30(水)9:30-17:00 ●美幌博物館 展示室 ●展示室観覧料(高校生以下は無料),9/21(月)はどなたも無料 ●美幌博物館スタッフ ●申込み不要。受付で用紙を受け取り、宝探しに挑戦してください。(お一人様1日1回限り)

博物館講座(自然編)「バッタのことを知ろう」

●9/12(土)9:30-12:00 ●美幌町美禽(みどりの村森林公園) ●保険代(100円)、汚れてもよい服装、帽子、飲み物、昆虫採集用あみ・かご(お持ちの方)、マスク ●柳谷卓彦(北網圏北見文化センター) ●美幌博物館へ電話申込み(9/1-9/9)。定員20名。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、保護者の同伴が必要。

プチ工房「やってみよう!草木染め」

●9/18(金),19(土)①10:00開始,②14:00開始 ●美幌博物館1F講座室 ●材料費(400円),マスク ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(9/1-9/17)。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。各回定員6名で締切。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加は、お控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また、状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

今月の休館日

7日, 14日
23日, 28日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

ホタルを 見るためには

写真・文／鬼丸和幸



今年、暖冬で雪が少なかったこと等に影響されたのか、郊外に位置している農業用水路で暮らしているヘイケボタルは、例年よりも早く現れ、7月下旬頃まで、比較的長くその姿を見ることができました。そもそも、ホタルは、どんな条件の時によく見られるのでしょうか。

【気温】…ヘイケボタルは昆虫であるため、自分では体温調節ができません。そのため、外気温が低いと体温が下がり、活動がにぶくなります。かと言って、あまり気温が高すぎてもダメで、美幌では15℃～25℃くらいの時、よく光り飛ぶようです。

【湿度】…乾燥している時よりも、じっとしていても体が蒸れてくるような湿度が高い方が、よく活動します。小雨くらいであれば、普通に光ります。

【風速】…いくら気温や湿度が高くて、風が強いと飛ぶことができず、草

の上などでじっと光り続けます。風が強く吹いている最中に、突然風が止んだりすると、一斉に飛び出したりします。【照度】…街灯など人工の光がある場所、月が出て辺り一面明るい夜など、ヘイケボタルはあまり飛びません。元々夜行性であり、明るすぎると、オス・メスお互いの光が見えづらいうということもあり、明るさを嫌がります。

…とは言っても、「気温も湿度も昨日と同じなのに、今日は全然いない…」ということは度々経験しており、いったい、どんな状況の時にヘイケボタルがよく見られるのか、いまだによくわかりません。逆に、そのことがホタルを研究する上で、大きな魅力にもなっています。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

版画の仲間・ モノタイプ

写真・文／久保田結衣

版画といえば、元版があれば何枚でも同じ作品を刷ることができる芸術表現の一種ですが、一点しか作れない版画も存在します。「モノタイプ（モノプリント）」といい、元版に絵の具やインクを重ね、別の媒体に転写すると、同じように、あるいは、想像と異なる作品を写し取ることができます。「踊り子」で知られるエドワード・ドガ（1834-1917）や、北海道の山々を手がけた一原有徳（1910-2010）らもこの技法を利用し、製作しました。

元版は版画専用のものに限らず、プラスチックや多少の凹凸があるもの（コインや穴の空いた鉄板、葉っぱなど）でも、インクをのせて写し取ることができます。彫る、孔を通すなどの製版をしないため、永続性がありません。モノはギリシャ語で「ただ一つの」の意味があり、再現が難しく、一点限



ブラ板に絵の具をのせ、画用紙に転写（合わせた）した作品。

独特の表現を楽しむことができます！

りの先品表現となります。とはいえ、自らの手や意思で製作するとは異なったアプローチでの製作には、偶然性が伴い、おもしろい味わいを感じられます。意図に左右されず、不思議な模様の表現を楽しむことができるという点では、モダンテクニックの「合わせ絵（デカルコマニー）」に近い表現かもしれません。

今月の博物館講座では、「シルクスクリーンのワークショップ」が開催予定となっていましたが、残念ながら、新型コロナウイルス感染予防のため、中止とさせていただきます。版画の仲間であるモノタイプは、特殊な機材を要さないのが気軽に楽しむことができます。ぜひ、チャレンジしていただければと思います！

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....
講座や授業のお手伝い、汚れる作業をする際に
使っているエプロンが、いよいよみすぼらしい見
た目になってきました。別れを告げる時が近づい
ているのかもしれませんが。何かいいエプロンが見
つけた時には、これまでの感謝を伝えてバトン
タッチをしたいです。(久保田)